

研修報告書No. 2

所属：東邦大学医療センター大森病院 研修医 稲葉 崇

研修先：構原町立国民健康保険構原病院

津野町国民健康保険杉の川診療所

今回私は、構原で1ヶ月の研修をさせて頂きました。

構原町は高知県高岡郡にある人口約3700人の町です。鉄道はなく、車でも高知市内から1時間半以上かかる交通の便の悪い町です。住民は高齢化率が約41%であり、人口ピラミッドにすると30年後の日本全体の予測人口ピラミッドとほぼ同じ構成になっています。町として環境をテーマに様々な施策を行っていることも特徴で、風力発電の導入、間伐材ペレットの有効利用などを行っており、環境モデル都市にも指定されています。

その構原病院の医療を担っているのが今回研修した構原病院です。構原病院は30床の小さな病院に6人の常勤医師が働いており、町民が多種多様な主訴で来院します。病棟、外来とも十分に研修させて頂き、指導頂きました。中でも、今までの初期研修で自分があまり経験できなかった褥瘡治療や創傷治療を数多く経験させて頂けた事は、非常に勉強になりました。また、コメディカルの方にも色々ご指導頂き、臨床検査室では血液検査や染色などの作業をやらせて頂きました。大学病院では電子カルテ上でオーダーをしたら結果が帰ってくるだけですが、技師さんの作業を実際にやらせて頂いたことは非常に新鮮でしたし、検査のコツなども教えて頂き非常に勉強になりました。

この病院の一番の特徴であり、私が一番驚いた点は、病院に構原町保健福祉支援センターが併設されていることです。病院と保健福祉支援センターと合同で週に一度はケアプラン会という会議を設けており、行政と病院が密に連携し、保険と医療と福祉と介護とがいつでも連携しあえる環境にあります。介護保険の申請やサービス導入などは都心の病院と比較すると格段にスムーズです。医師、看護師だけでなく、ケアマネ、理学療法士、民生委員など、すべての職種が町民の健康を守るべく同じ方向を向いて協力しあう姿勢に非常に感動しました。都内の大学病院に勤務していると、介護や福祉は行政の仕事であると割り切ってしまう場面に多々遭遇しますが、住民の側に立った視点を持ち、柔軟な連携をとれる医療を心掛けていかなければいけないと感じました。

今回の研修では病院以外での研修も多数させて頂きました。

構原町内の特別養護老人ホームでは、1日介護体験をさせて頂きました。ヘルパーさんは私より小柄でもテキパキと入浴や体位変換を行っており、自分は大した戦力になっていなかった気がします。ヘルパーさんのプロとしての技術やスタミナに驚きましたし、介護の大変さを身に染みて感じました。また、医師である自分は介護の場面においては本当に素人

同然だと感じました。自分は今後、患者を在宅に戻したり施設に入れたりする立場であります。介護の現場にいるヘルパーさんや家族の事を今まで以上に考えて介護導入をしていかなければならないと感じましたし、介護や福祉に対する勉強も更に必要だと感じました。

今回、生まれて初めて高知県に足を踏み入れて1ヶ月研修させて頂きました。東京生まれ東京育ちの自分にとっては未知の環境であり、病院のスタッフや地域の方とうまくやっていたら不安でした。しかし、病院のスタッフからも町民の方からも本当に良くして頂き、すぐにうちとけることができました。郷土料理を頂いたり、お酒を飲みかわしたり、地元の温泉に入ってみたりと、地元の文化にもたくさん触れる事ができました。1ヶ月充実した研修を受けられた事を幸せに思います。自分は今後プライマリケアの分野に進みたいと思っていますので、今回の研修で学んだ事を今後の自分の医療に活かして頑張りたいと思います。梶原病院の皆様、梶原町の皆様、そして高知医療再生機構の方、本当にありがとうございました。